

旧華頂宮邸活用検討協議会ニュース vol. 1

旧華頂宮邸活用検討協議会 平成 22 年 9 月発行

平成 22 年 3 月に旧華頂宮邸活用検討協議会を設立し、検討を進めています！

協議会は 6 名の委員(専門家 1 名、地元市民 2 名、公募市民 3 名)で検討を進めています。これまでに 3 回の会議(3 月 30 日、5 月 30 日、8 月 15 日)が行われ、毎回活発な意見交換を行っています。



旧華頂宮邸活用検討協議会について

旧華頂宮邸活用検討協議会は、旧華頂宮邸の活用を具体的に検討するため、市民の幅広い意見を伺うことを目的に設置されたものです。課題整理や実験活用なども含め、活用の基本的方針を検討し、平成 24 年 3 月まで開催して活用方針を市長へ提言します。

これまでの会議の内容

第 1 回 委嘱式・旧華頂宮邸の概要について (3 月 30 日)

市長からの委嘱状交付の後の互選によって会長(水沼委員)、副会長(齋藤委員)が選出されました。

「互いを知り合い、旧華頂宮邸を知る」をテーマに、各自の自己紹介の後、旧華頂宮邸の概要、建築的・歴史的評価や市が取得に至った経緯、その後の経過などについて共通認識を図りました。また、今後、周辺環境や法規制、他市の活用事例などを学びながら、活用方法の検討を進めていくことが確認されました。

第 2 回 現地視察・法規制について (5 月 30 日)

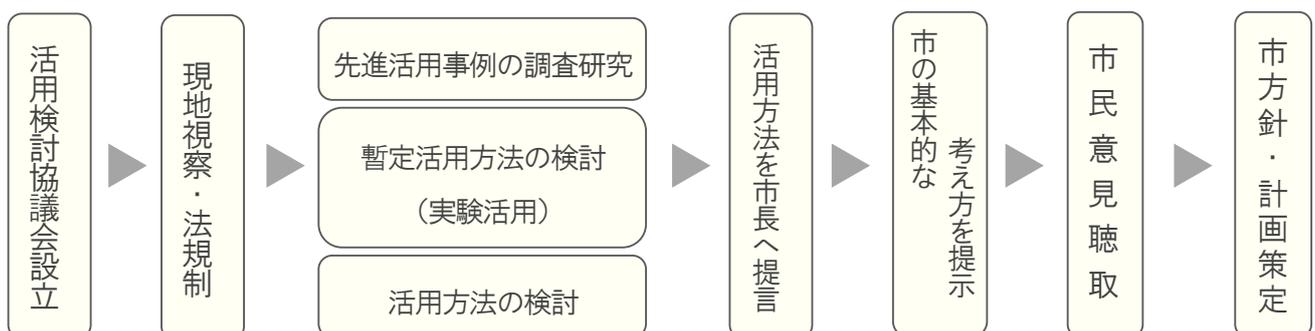
宅間ヶ谷一带を齋藤委員の案内で視察しました。その後、和館、洋館を見学しました。また、宅間ヶ谷周辺の歴史について学ぶとともに法規制上の課題について話し合いました。

現地視察を終えた委員の感想

- ◇ 住んでいる方がこの環境を大切にしていることがよく分かった！
- ◇ 鎌倉らしいしっかりと落ち着いた環境で大変よかった！
- ◇ コミュニティによって維持され愛されている場所であることを実感した！

建物の質の高さ、宅間ヶ谷の環境のよさを維持しながら
その価値を共有できるような利活用の仕方を考えたい

今後の予定



旧華頂宮邸活用検討協議会委員をご紹介します！



水沼会長

建物の活用の仕方一般解はなく、すべて個別解だと思います。旧華頂宮邸の魅力は、建築、庭園、周辺環境が一体となり形作っているものです。その魅力を伝えることのできる活用方法を探っていきたいと思います。



齋藤副会長

旧華頂宮邸は、周辺の景観・環境も含めて市民の貴重な財産です。それを次世代へ引き継いでいくために、どんな知恵が出来るかがミッションだと思います。



石井委員

生まれも育ちも鎌倉ではありません。鎌倉に住みたい想いで住み始めてから十数年。会社員として都内に通勤していますが、興味関心のある景観整備、観光まちづくり、福祉整備の視点で参加させていただいています。



伊東委員

市内のあちこちをスケッチして歩く中、景観の移り変わりを痛感してきました。鎌倉近代史からの素晴らしい贈り物、旧華頂宮邸を、心豊かな市民生活に活かしながら次世代へ大切に手渡せるよう、皆様と考えていければと思います。



瀬藤委員

以前より興味があった旧華頂宮邸の活用検討協議会のメンバーに就任し、期待感と責任の両方を感じています。鎌倉らしい品位と文化的価値を維持しながら広く利活用できる方法を考えていきたいと思っています。



深山委員

地域（地元町内会）の代表として、我が侘な発想と要望をしながら、出来ることと出来ないこと、実現するための手段方法等について、議論を深めたいと思います。

旧華頂宮邸コラム

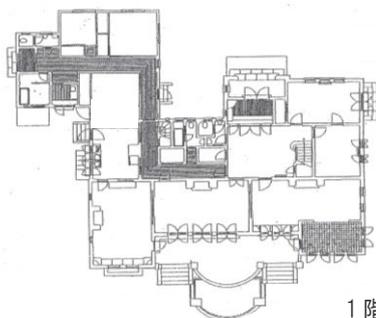
「旧華頂宮邸コラム」では、旧華頂宮邸の魅力をより多くの方に知っていただくために、シリーズで紹介していきます。今回は「建物の特徴」についてです。

旧華頂宮邸は、昭和4年に建設され、神奈川県内の戦前の洋風住宅建築としては鎌倉文学館に次ぐ大きさを誇っています。華頂侯爵が住まれたのはわずか数年で、その後、所有者が度々変わり、平成8年に鎌倉市が所有しました。

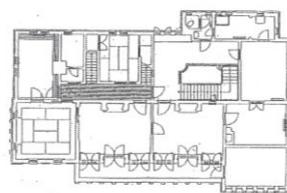
外観は、西洋民家に見られるハーフティンバースタイルを基調としながら、玄関側立面の凹凸や2階の窓の上下に見られる幾何学的な壁面模様などが旧華頂宮邸の外観をより魅力的にしています。

華頂侯爵が住まわれていた時期、各室がどのように使われていたかは分かっていませんが、主屋内部の多くの部屋には大理石でできたスチーム暖房用のマントルピースが現在も残っており、各部屋の床や窓に施されたデザインを堪能しながら当時の生活を思い浮かべてみるのも良いかもしれませんね。

旧華頂宮邸は春と秋に建物公開があります。次回の公開日は、10月2日（土）、3日（日）です。ぜひ足を運んでみてください！！



1階平面図



2階平面図



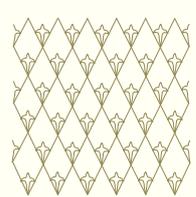
ハーフティンバースタイルとは柱、梁など骨組みをそのまま外部に現し、その間の壁を石材、土壁などを充填したもので、当時は最先端のデザインでした！

旧華頂宮邸の装飾模様

実は、このニュースの中で既に外観や建具に使用されている模様が登場しているのですが、お気づきになりましたか？「旧華頂宮邸検討協議会ニュース」では、毎号、旧華頂宮邸の装飾模様をデザインに用いながらご紹介していきたいと思っています。



窓上下の壁面模様



建具の装飾模様

建築概要

- ◆建設年／昭和4年
- ◆設計者・施工者／不詳
- ◆構造／木造3階建て、コンクリート布基礎、洋小屋組
- ◆敷地面積／約4500㎡
- ◆延べ床面積／約578㎡
- ◆屋根／銅板一文字葺き切妻
- ◆外壁／木骨モルタル塗り、一部タイル貼り
- ◆用途地域／第一種低層住居専用地域、第2種風致地区

次回の旧華頂宮邸コラムは、「宅間ヶ谷と景観」についてです。

お楽しみに♪

詳しくはホームページで

<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keikan/k-index1.html>